

(様式第4号)

調 査 研 究 完 了 報 告 書

調 査 研 究 課 題	健康危機管理情報に関する調査研究
研 究 期 間	平成24年度 ～ 26年度 3年間
目 的	健康危機管理の一環として、化学物質による健康被害状況を追跡していくことは重要であるため、それらの情報を収集し整理する。
得られた 成 果	<ul style="list-style-type: none">・全国の毒物又は劇物の流出・漏洩事故は、過去10年間(平成16～25年度)で861件発生し、そのうち健康被害は190件発生している。当県では、40件発生し、そのうち健康被害は10件発生している。・健康被害が多く発生している毒物又は劇物は、主に諸種の塩化物、膠製造などに使用される塩化水素、続いて、土壌燻蒸に使用されるクロルピクリン、せっけん製造、パルプ工業などに使用される水酸化ナトリウムとなっている。当県でも、クロルピクリンの健康被害が4件発生している。・健康被害が発生した主な原因としては、取扱いの不注意や保管容器等の劣化などがあった。
成 果 の 普 及 ・ 活 用 方 法	<ul style="list-style-type: none">・県内で過去10年間に発生した毒物又は劇物の流出・漏洩事故に伴う健康被害状況の概要を当研究所のホームページに掲載した。・全国で過去10年間に、毒物又は劇物の流出・漏洩事故に伴い健康被害が10件以上発生した毒物又は劇物について、対処法等を取りまとめ当研究所のホームページに掲載した。
残された 課 題 ・ 問 題 点	今後、毒物又は劇物の流出・漏洩事故が発生した際には、迅速に情報提供等を行い、被害の拡大防止に寄与する。

※ 研究成果等の資料があれば添付すること。

完了評価結果報告書

平成 27 年 9 月 16 日

調査研究課題	健康危機管理情報に関する調査研究		
評価項目	評価	意見	備考
①調査研究の 妥当性	3, 5, 4, 5, 5, 4, 3 平均評価点：4.1	外部委員 ・研究に要した期間，研究方法ともに妥当であり，経費は元より少額であり，問題ない。 ・3年の調査研究期間のうち前2年間は経費ゼロとされているが，情報収集のみであったと理解している。	
②目標の達成度	4, 5, 4, 4, 5, 5, 3 平均評価点：4.3	外部委員 ・茨城県における実態の精査など調査成果は目標に沿っていると考える。毒物または劇物の漏洩・流出事故件数が，全国の中でも10位以内と高く対策が望まれる結果である。 ・件数，原因物質，被害状況，対処法は整理された。さらに，業種や規模と危険要因，防止のための方策を考察されるとよい。	
③成果の意義，達成度	4, 5, 4, 4, 5, 5, 3 平均評価点：4.3	外部委員 ・上記の如く，結果は県の施策に反映されなければならないと考える。 ・HPへ掲載されたことはよい。事業者等への広報もなされるとなお効果があると思う。	
④総合評価	3, 5, 4, 4, 5, 5, 3 平均評価点：4.1	外部委員 ・限られた予算内で結果は目標に達している。施策後の調査が，また期待される。 ・研究目的は，ほぼ達成された。 ・本研究は，広く一般に普及している毒物または劇物の流出・漏洩事故の原因とその対処法について調査したものであるが，これらの化学物質の危険性，事故の主な原因と事故発生時の適切な対処法をこれらの化学物質の取扱者に広く	

		<p>周知させて頂きたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去10年間の結果を、整理されて有用な情報を提示した。今後、事例を加えていきながら、役立てていただきたい。 <p>内部委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標を達成し、県民への還元性も高い。 ・文献調査等が主で、データ収集の苦労は認められるものの、新規性に乏しい。今後の展開についても、説得力に欠ける。 	
--	--	---	--

評価点 1：不良 2：やや不良 3：普通 4：やや良好 5：良好

追跡評価実施の 要否	否：7人	<ul style="list-style-type: none"> ・ここまでの結果を薬事行政に反映できれば良い。 	
---------------	------	---	--